



敦賀市／総参祭

思いを乗せ、海を渡る舟神輿

ふなみこし

海を挟んだ2つの神社で守られる神事。
そこには、人々の心が宿る。



護岸整備がされる以前の『総参祭』。常宮神社前の波止場に舟神輿が到着する(昭和10年代)



たくさんの観衆に見守られて本殿へ向かう舟神輿。当時の賑わいが伝わってくる(昭和30年代)

年

にたった二度、遠く離れた女神に会うため、男神が

はるばる海を渡る。盛夏の敦賀湾を舞台に行われる『総参祭』は、気比神宮にまつられる仲哀天皇のご神体に乗せた舟神輿が船で対岸の常宮神社にまつられた神功皇后のもとを訪ねるロマンチックな神渡りの神事だ。港街らしい情緒豊かなこの祭りは、敦賀の人々に愛され、1200年にわたり、受け継がれてきた。舟神輿を気比神宮から御幸浜まで担ぐのは、「気比神宮氏子青年会」のメンバー。事務局長を務める吉田進二さんは、「二時は舟神輿の担ぎ手がおらず、ご神体をタクシーやトラックで運んでいたのです」と話す。そもそも、この会は自分たちの手で神事を復興させようという地元の有志によつて昭和54年に発足したもの。吉田さんは「地域の人々が楽しそうに活動している様子にひかれて」30歳の頃に入会した。以来、メンバーの二員として『総参祭』をはじめ、気比神宮の神事を盛り立てる傍ら、様々な伝承や祭りに関する研究も行っている。「けいさん(気比神宮)には幼少から親

「『総参祭』の歴史や由来を調べるのはもはやライフワークですね」と吉田さん



『総参祭』に参加すると豊漁に恵まれるといわれ、舟神輿を運ぶ船には大漁旗もはためく



対岸の常宮神社に到着。慎重に神輿が降ろされ、氏子たちの手で本殿へと運ばれる



白丁烏帽子姿に身を包んだ氏子青年会のメンバー。神輿を担ぐ額には、玉の汗が浮かぶ



「今年の祭りは土曜日。多くの人に見に来て欲しいですね」と宮本さん

information

『総参祭』
平成18年 7月22日(土)

気比神宮
敦賀市曙町11-68
TEL.0770-22-0794